

企業と大学生が協働し、
持続可能な社会に向けた解決策を大研究!

あいちの「人づくり」プロジェクト!



かがやけ★
あいちサステイナ研究所



かがやけ★あいちサステイナ研究所とは

未来のあいちの担い手となる大学生が、グローバルな視点を持って継続的にエコアクションを実施することができるよう、愛知県が立ち上げたプロジェクトです。パートナー企業から提示された環境面での取組に関する課題に対し、研究員である大学生が現場での調査や企業担当者とのディスカッションを実施します。解決策を企業側に提案し、その成果を広くPRします。



2025年度パートナー企業(五十音順)

MS&AD

あいおいニッセイ同和損保

あいち銀行

和食屋
サカミ

Shachihata

DAIDO METAL

Niterra
日本特殊陶業

MaxValu
マックスバリュ東海株式会社

LIXIL

2025年度の活動

6月22日(日)

開所式



企業、ファシリテーター、研究員全員で顔合わせ。活動のキックオフ！

6月29日(日)・7月6日(日)

基礎講座



環境問題やSDGsの基礎を学ぶ講座を受講！昨年度の修了生の貴重な経験談も聴講。

7月～12月

企業の 課題研究



チームで企業を訪問。環境取組の現場調査、企業担当者とのディスカッションを実施。

7月～12月

チーム ミーティング



課題研究後、チーム内で振り返りや企画立案を実施。

10月26日(日)

中間発表会



研究成果を中間発表。成果発表会に向けて、発表内容をブラッシュアップ。

12月7日(日) 成果発表会・修了式

パートナー企業の環境課題

MS&AD

あいおいニッセイ同和損保

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

課題

事故のない社会を目指すべく、走行データを活用したエコドライブのさらなる推進策を検討せよ

あいおいニッセイ同和損保では、お客様の走行データをもとに、事故の未然防止につながるサービス提供を可能とする「テレマティクス自動車保険」を販売しています。この商品では、安全運転によるCO₂排出削減量を可視化しており、運転技術の向上と環境保護に貢献しています。そこで、事故のない社会を目指すべく、走行データを活用したエコドライブのさらなる推進策を検討します。



株式会社サガミホールディングス

課題

持続可能な未来を次世代に!

サガミのリソースを活用した脱炭素につながる取組を提案せよ

気候変動が深刻化する中、カーボンニュートラルの実現が急務となっています。サガミグループにおいても、使用済みの天ぷら用油を再利用するなど、CO₂削減に向けた取組を進めています。そこで、持続可能な未来を次世代に残すための、サガミのリソースを活用した脱炭素につながる新たな取組を検討します。



大同メタル工業株式会社

課題

持続可能な社会の実現に向け、

大同メタルの強みを生かしたSDGs体験型プログラムを検討せよ

大同メタル工業は多種多様な産業分野の回転を支える世界で唯一の「総合すべり軸受メーカー」です。創業から86年、社会・環境に最大限配慮しながら世界でフィールドを広げてきました。今後はこれまで以上に広い視点で社会・環境に向き合うため、従業員や地域住民といったステークホルダーに向けた、当社の強みを生かしたSDGs体験型プログラムを検討します。



マックスバリュ東海株式会社

課題

食と環境をテーマとした、

お客様参加型のプログラムを提案せよ

マックスバリュ東海は、「何よりもお客様の利益を優先しよう。」という企業理念のもと、安全で安心な商品・サービスの提供と店舗づくりを行い、お客様と同じ地域社会の一員として、地球環境への負荷低減と保全に努めています。そこで、食と環境をテーマにしたマックスバリュ東海らしいお客様参加型のプログラムを検討します。

あいち銀行

株式会社あいち銀行

課題

あいち銀行だからこそできる

地域の生物多様性保全につながる企画を検討せよ

愛知県は多種多様な生物が存在する地域ですが、「レッドリストあいち2025」によると、動物398種、植物556種が絶滅のおそれがあると評価されています。愛知県を事業基盤とする地域金融機関として、県内の生物多様性の保全に取り組んでいくことは不可欠であり、あいち銀行だからこそできる生物多様性の保全につながる企画を検討します。

Shachihata

シヤチハタ株式会社

課題

“しるしの価値”を提供する

サステナブルな製品を考案せよ

2025年で創業100周年を迎えたシヤチハタは、「社会が望む『便利』『楽しさ』『安心・安全』を世界へ」を企業理念として掲げてきました。近年では事務用品にとどまらず、家庭での利用を想定した商品など、人々の暮らしに寄り添った商品を開発しています。そこで、次の100年に向けて、“しるしの価値”を提供するサステナブルな製品を考えます。

Niterra

日本特殊陶業

日本特殊陶業株式会社

課題

CO₂を利活用してつくる製品の

環境価値に共感してもらえる売り方を企画せよ

日本特殊陶業では、工場のCO₂を回収し地域で活用する「地域CCU[®]」を通して、その環境価値を消費者に共感してもらうとともに、購入行動を起こしてもらうことでサステナブルな社会を実現することを目指しています。その取組の一環として、地域のCO₂を活用して生産した温室みかんとその加工品の環境価値を、一般的の消費者に理解して購入いただけるような企画を検討します。

LIXIL

株式会社LIXIL

課題

知多半島の海を守る取組の

さらなる活発化につながる方策を提案せよ

知多半島で事業を営むLIXILは、社員の一人が海洋プラスチック問題に関心を持ったことをきっかけに、地域課題の解決とリサイクルへの貢献の両方を目指すプロジェクトを始動させ、地域ぐるみでの海を守る活動などに取り組んでいます。このプロジェクトをさらに活発化させ、地域の皆さんに環境問題を知ってもらうための方策を検討します。



課題

事故のない社会を目指すべく、走行データを活用した エコドライブのさらなる推進策を検討せよ

あいおいニッセイ同和損保では、お客様の走行データをもとに、事故の未然防止につながるサービス提供を可能とする「テレマティクス自動車保険」を販売しています。この商品では、安全運転によるCO₂排出削減量を可視化しており、運転技術の向上と環境保護に貢献しています。そこで、事故のない社会を目指すべく、走行データを活用したエコドライブのさらなる推進策を検討します。

解決策

3Eドライブ (Enjoy, Easy, Ecology) 体験で広がる ～楽しく簡単でエコな運転の輪～

課題解決の方向性
[考え方]

テレマティクス自動車保険を普及させることは、エコドライブや事故頻度低減につながります。そこで、自動車教習所やカーシェア・レンタカーにおいてテレマティクス技術体験の場を設置し、「楽しく(Enjoy)・簡単で(Easy)・安全(Ecology)に運転していたら自然とエコにつながる」新しいドライブ体験を提案します。

テレマティクス
自動車保険とは走行データで安全運転を評価し、
保険料に反映従来は「年齢・事故歴」で
決まっていた保険が、走り方で変わる楽しく学べる
「運転見える化サービス」

保険の良さを知ってもらうために、テレマティクス技術体験の場を設置

自動車教習所でのテレマティクス体験

利点

- 初めての運転段階で
「安全=エコ」を理解しやすい
- データを使うと教習の理解が深まる

得られる効果

- 指導の質の向上
- 教習生の満足度アップ
- 教習所の差別化

スタート地点から「安全運転の習慣」を
身につけることができる

カーシェア・レンタカーでのテレマティクス体験

利点

- 乗るだけで自然に
テレマティクス体験ができる
- 若者や観光客も利用しやすい

得られる効果

- AIがエコルートを提示→事故と燃費の改善
- 運転者の行動改善
- 事業者の事故抑制・コスト削減

日常利用で
「安全・エコ運転」が広がる

持続可能な社会へのポイント

- 「安全運転=エコ」であり、安全運転は事故の抑制とCO₂削減の両方に寄与することを理解し、実践することで、サステナブルな社会の実現につなげる。
- テレマティクスの仕組みをより身近にし、その活用を広げることで、誰もが安心して安全に暮らせる地域づくりを推進する。
- 教習生の頃から3Eドライブを身につける機会を提供することで、環境にやさしい運転が社会に広がり、従来になかった新しい価値を教習所に生み出す。



研究員メッセージ

テレマティクス自動車保険への理解を深め、走行データの分析や新たな活用方法について議論を重ねました。その中で「楽しく、簡単で、安全運転が自然とエコにつながる」体験をどう提供するかを考えました。多くの人が走行データを活用したエコドライブを実践することで、事故のない社会の実現につながることを願っています。

チーム
AD愛知工業大学 2年 稲垣真穂
南山大学 2年 加藤由奈星城大学 3年 折戸遙香
中部大学 1年 森咲良奈ファシリ
テーター特定非営利活動法人
アスクネット
顧問 白上昌子

課題

あいち銀行だからこそできる 地域の生物多様性保全につながる企画を検討せよ

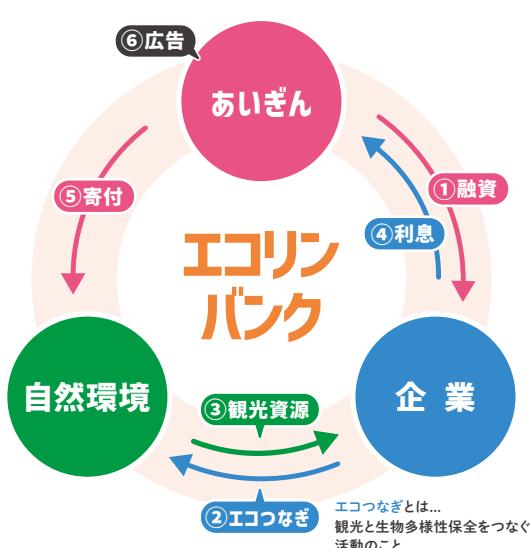
愛知県は多種多様な生物が存在する地域ですが、「レッドリストあいち2025」によると、動物398種、植物556種が絶滅のおそれがあると評価されています。愛知県を事業基盤とする地域金融機関として、県内の生物多様性の保全に取り組んでいくことは不可欠であり、あいち銀行だからこそできる生物多様性の保全につながる企画を検討します。

解決策

「銀行」×「自然」×「観光」のサイクルを回そう!! ～エコリン(輪)パンク～

**課題解決の方向性
[考え方]**

自然環境を資源とする観光は、愛知県の生物多様性の保全と密接にかかわっていると考えました。そこで、銀行の観光関連企業への融資を通して得た利益の一部を生物多様性保全活動に寄付することで、持続的な社会づくりに貢献することが可能な企画を提案します。



- ①融資**
あいち銀行が生物多様性保全に力を入れている
観光関連企業に融資
- ②エコつなぎ ③観光資源**
①で融資を受けた企業が、自然環境に投資し、
観光資源を活用して利益を得る
- ④利息**
②で得た利益の一部を、利息としてあいち銀行に支払う
- ⑤寄付**
④の利息の一部を、あいち銀行が自然環境保全団体等に寄付
自然環境・観光資源が豊かになり観光関連企業の利益が増加
- ⑥広告**
あいち銀行の店舗で観光関連企業の広告を実施し、
観光関連企業の利益の増加に寄与

持続可能な社会へのポイント

- 生物多様性保全に力を入れている企業にあいち銀行が融資を行うことで、
企業による生物多様性保全活動を活性化させることができる。
- 融資を受けた企業が、自然環境を活用した新たな観光事業の拡大に挑戦することで、
経済成長が期待できる。



研究員メッセージ

一見すると銀行と生物多様性は全く関係が無いように思われるが、私たちの考えた提案により、様々な企業が生物多様性保全活動により積極的に取り組むことが出来るようになればと感じました。今回の提案のように、銀行による融資という間接的な形でも、生物多様性保全活動がさらに広がっていく可能性があることを知ってもらえたと幸いです。

チーム
あいぎん中部大学 3年 青山陽輝 名古屋学芸大学 3年 鈴木ひとみ
南山大学 2年 富井心愛 中部大学 2年 成田龍生ファシリ
テーターピオトープ・ネットワーク中部
会長 長谷川明子

課題

持続可能な未来を次世代に！ サガミのリソースを活用した脱炭素につながる取組を提案せよ

気候変動が深刻化する中、カーボンニュートラルの実現が急務となっています。サガミグループにおいても、使用済みの天ぷら用油を再利用するなど、CO₂削減に向けた取組を進めています。そこで、持続可能な未来を次世代に残すための、サガミのリソースを活用した脱炭素につながる新たな取組を検討します。

解決策

そばスイーツと創電体験を通した“体験型脱炭素” ～ゆたかさと笑顔溢れる未来のために～

課題解決の方向性 [考え方]

サガミの「おいしさへのこだわり」と「おもてなしの心」を守りつつ、店舗のリソースを活用することで、脱炭素社会の実現を目指します。店舗で発生する廃棄そばを有効活用するとともに、節電や脱炭素について考えるきっかけとなる創電体験を導入。家族や仲間と楽しみつつ、健康や環境を意識した体験型の取組を通じて、脱炭素の形を提案します。



廃棄される
そばの存在

そばメリゼ

(そばをキャラメル加工したもの)

廃棄そばを“ほっこり”スイーツに

- スーパーフードのクコの実やかぼちゃの種を加えて、からだ想いの健康美容志向に！
- 天ぷら調理のついででCO₂を増やさない
- お客様に“笑顔”と“おいしさ”を
- お客様自身でのトッピングアレンジ体験で楽しUP↑

体験価値

「まわして・ためて・もらえる」体験の運動企画

45秒の創電体験でスタンプ1個贈呈！(回数は無制限)
10個たまると、アイスにそばメリゼを添えて無料提供！

創電体験 ▶ スタンプ ▶ そばスイーツ
脱炭素への行動が楽しみへとつながる仕組み

おもてなし

創電体験

お客様による創電体験

- サガミの玄関の「顔」である電動石臼前に体験型創電オブジェ、名付けて“サガミぐる電”を設置
- 待ち時間に楽しみに変え、家に帰っても節電や脱炭素を考えるきっかけづくりに！
- 健康増進につながる体験が話題となり、みんなの脱炭素意識向上↑



持続可能な社会へのポイント

- 「もったいない」「おいしい」に
→そばロス(廃棄されるそば)を、お客様をほっこりさせるスイーツとして再活用し、“健康”と“おいしさ”に変える。環境負荷を減らしながら、食の価値を新たに創出。
- 創電体験を通して、お客様の健康増進と節電や脱炭素に向けた意識改革を図る。
- サガミが大切にする「おもてなしの心」を活かし、“食を通して笑顔を生む”ことを中心に据えた体験価値を提供
→参加型で楽しく体験することで、お客様自身の意識を高め、生活の中での節電や脱炭素につなげる機会を作る。



研究員メッセージ

私たちは「すべてはみんなのゆたかさと笑顔のために」というサガミさんの想いを受け、課題に取り組んできました。サガミさんのリソースを生かしつつ、いかに脱炭素を実現するか悩み抜いた結果、今回の提案に至りました。サガミさんだからこそその脱炭素の一歩となれば幸いです。

チーム
サガミ

南山大学 1年 清水恵梨
愛知教育大学 2年 山本和佳
名古屋学芸大学 3年 野村彩那
中部大学 3年 吉川奈希

ファシリ
テーター

フィトラボ
代表 松本イズミ





課題

“しるしの価値”を提供する サステナブルな製品を考案せよ

2025年で創業100周年を迎えたシヤチハタは、「社会が望む『便利』『楽しさ』『安心・安全』を世界へ」を企業理念として掲げてきました。近年では事務用品にとどまらず、家庭での利用を想定した商品など、人々の暮らしに寄り添った商品を展開しています。そこで、次の100年に向けて、“しるしの価値”を提供するサステナブルな製品を考えます。

解決策

しるしで伝える“わたし”的気持ち ～サステナブルスタンプ ふい～りんぐつ～

**課題解決の方向性
[考え方]**

日本では自分の気持ちをはっきり相手に伝えられる人が少ないと感じます。様々な要因がありますが、「自分の気持ちをうまく伝えること」ができれば、他者とのコミュニケーションが充実し、関係性が育まれ、より良い社会づくりの一歩となるのではないかでしょうか。うまく伝えられない気持ちを「そっと後押し」して伝えるサステナブルスタンプを提案します。



子ども・若者の現状

気持ちを表すことに不安を感じている



持続可能な社会をつくるためには、一人ひとりが
自分の気持ちをうまく伝えられることが必要

スタンプセット ふい～りんぐつ

気持ちを大人に伝える手段に

「助けて」「聞いてほしい」…気持ちを伝えます！

今日の気持ちをしるしに

スタンプを押して伝えます

実際に子どもから「絶対使う!」「可愛い!」と大好評!



【環境に配慮した素材】

学校から出る廃棄物を資源として使います。

- 本体:ペットボトル(子どもから回収)
- インク:チョークの粉
- ハンコを押す紙:不要になったプリント

持続可能な社会へのポイント

- 自分の気持ちを「しるし」で表すことで、様々な状況にある子どもたちが言語以外のコミュニケーションツールをもつことができる。
- 子どもたちがこのスタンプを使用し、「自分の思い」を他者に伝えることを習慣化することで、自分に自信を持ち、持続可能な社会の担い手の育みにつながる。
- 学校で使われているチョークの粉や要らなくなったプリント、ペットボトルなどプラスチックを活用してスタンプセットを制作することで資源節約・循環につながる。



研究員メッセージ

創業100周年を迎えたシヤチハタの「しるしの価値」を学びました。デジタルが普及しつつある今こそ、スタンプを押す楽しさを活かして、自分の気持ちを表現できる社会にしたい。このスタンプが、私たちの思いの“しるし”となって、日本、そして世界の人々をつないでほしいと提案しました。

チーム
シヤチハタ金城学院大学 2年 北島由菜 愛知学院大学 2年 近藤寿名
愛知教育大学 3年 末松真奈 南山大学 1年 森田まりファシリ
テーター一般社団法人
SDGsコミュニティ
代表理事 新海洋子

課題

持続可能な社会の実現に向け、 大同メタルの強みを生かしたSDGs体験型プログラムを検討せよ

大同メタル工業は多種多様な産業分野の回転を支える世界で唯一の「総合すべり軸受メーカー」です。創業から86年、社会・環境に最大限配慮しながら世界でフィールドを広げてきました。今後はこれまで以上に広い視点で社会・環境に向き合うため、従業員や地域住民といったステークホルダーに向けた、当社の強みを生かしたSDGs体験型プログラムを検討します。

解決策

知って、体験して、学ぶ 体験型プログラム「未来のたねをまこう！」

**課題解決の方向性
[考え方]**

大同メタル工業のすべり軸受は、摩擦が生じる部分に使うことで摩擦が軽減され、エネルギー効率を向上させます。摩擦が発生する状況や、すべり軸受が無駄なエネルギーを減らすことを楽しく学び、SDGsの達成に向けて自分にできることを考えてもらうプログラムを提案します。


まさつ研究所

摩擦についての簡単なクイズを出題。
子供達にクイズを通して、
楽しく摩擦について知ってもらう。

【例題】

- えんじて字が書けるのはなぜ?
- 砂の上と氷の上、どっちの方がすべる?
- くつの裏のギザギザは何のため?
- まさつが大きいとどうなる?
- 車のタイヤがツルツルだとどうなる?
- まさつが大きいとどうなる?


くるくる水車ランド

大同メタル工業で
将来的な設置も検討している
ピオトープにある水を活用したミニ水車。
軸受を様々なパーツで再現し、
パーツを交換すると
水車の動きを体験しながら学べる。


のぞいてみよう！回転の仕組み

VRコンテンツを使い
大同メタル工業の製品を覗き見。
風車や自動車などの内部にある
軸受を見つける。
軸受の使われている場所や
役割を知ることができる。

- 摩擦を軽減することは、エネルギー削減・エネルギー効率の向上=SDGsの達成に貢献することを、楽しく学ぶ
- 「SDGsの達成に向けて、自分には何ができるか」を考え、行動に移すきっかけとなる

【例】
省エネのため、日頃から
節電を意識するようになる

持続可能な社会へのポイント

- 大同メタル工業の事業所が所在する犬山市内を始めとした地域の住民等に、摩擦やすべり軸受について知ってもらうことで、
エネルギー効率向上に対する理解を深めてもらう。
- エネルギー効率向上について知ってもらうことで、
節電や省エネ意識が高まり、SDGs達成に向けた取組が進む。



研究員メッセージ

大同メタル工業の主力製品であるすべり軸受は、一般の人人が普段目にすることの少ない部分に使用されています。今回私たちは、すべり軸受が摩擦を軽減し無駄なエネルギーを減らすことの理解を通して、SDGsについて考えてもらうプログラムを考案しました。私たちの提案により、SDGsについて考える人や機会が増え、一人でも多くの人がSDGs達成に向けて行動を起こせるようになってもらえたなら幸いです。

チーム
大同メタル
 名古屋商科大学 2年 小野田真幌 中部大学 3年 川瀬琳久
星城大学 3年 北弘佳 名古屋大学 4年 渡邊棕

ファシリテーター

 アルト・ファシリテート
代表 葛原祐季




課題

CO₂を利活用してつくる製品の 環境価値に共感してもらえる売り方を企画せよ

日本特殊陶業では、工場のCO₂を回収し地域で活用する「地域CCU®」を通して、その環境価値を消費者に共感してもらうとともに、購入行動を起こしてもらうことでサステナブルな社会を実現することを目指しています。その取組の一環として、地域のCO₂を活用して生産した温室みかんとその加工品の環境価値を、一般の消費者に理解して購入いただけるような企画を検討します。

解決策

環境×推し活 ～環境問題を楽しく考えられる世界へ～

課題解決の方向性 [考え方]

地元で回収したCO₂を再活用して栽培されたNiterraのみかんは、環境負荷の低減だけでなく、地域を活性化させる力を持っています。その価値を、環境問題に対して難しいイメージを持っている人にも楽しみながら知ってもらうべく、消費者がワクワクを感じられるような売り方を提案します。

消費者に 伝えたい こと

- 通常の温室みかん栽培ではCO₂を排出しているのに対し、Niterraのみかん栽培は地域のCO₂を再活用していること
- CO₂は資源として活用することも出来ること
- 地域CCU®の取組は、地域のつながりを強め、持続可能な社会作りに貢献していること

しかし 環境問題に難しいイメージを抱く人も多く、興味を持つてもらえない

価値を伝える過程でワクワクを提供する！

興味を持つ

- インパクトのある風鈴型パッケージ（バイオマスプラスチック使用）で興味を持ってもらう
- 風鈴に付いている短冊の言葉で「何だろう？」「知りたい！」を引き出す



知る

- パッケージのQRコードからクイズができる、地域CCU®などの知識を学べる
- クイズに正解すると、地域CCU®になぞらえた物語が展開され、「地域の工場から農家へCO₂を届ける」という地域のつながりを体感できる
- 消費者が推しの画像をアップロードすることで、推しを物語に登場させられる

広める

- パッケージは推しのぬいぐるみポーチとして再活用でき、持ち歩くことで宣伝効果にもなる
- パッケージの裏にはみかんの被り物が印刷されており、推しのぬいぐるみを入れるとかわいく変身させられる



持続可能な社会へのポイント

- みかんの購入がCO₂を「資源」として再活用されることにつながり、地域が活性化する。
- 「環境問題=難しい」というイメージを推し活を通して“ワクワク”に変え、若者を始めとした消費者の関心を高める。
- 企業・農家・地域住民が連携することで人のつながりを生む。
- 地域CCU®の取組の一部に携わることで、地域への愛着が湧き、地域活性化に向けた行動変容につながる。



研究員メッセージ

「CO₂は資源としても活用できる」ことを知ってもらいたい。この気持ちを胸に、どのようにしたらみかんの販売を通して知ってもらえるのかを模索してきました。「環境問題は難しい」というイメージを持っている人が多い。だからこそワクワクを感じてもらいながらみかんを購入してほしいという思いを込めて考えました。私たちの提案を通して、多くの人が環境に配慮した製品を購入したいと思ってもらえるきっかけになることを期待します。

チーム
Niterra

中部大学 3年 今井伶香 愛知工業大学 2年 日比野斗亞
名古屋市立大学 3年 武藤穂花 名城大学 3年 村松英弥

ファシリ
テーター

一般社団法人
ひらけエデュケーション
代表理事 若杉 逸平



課題

食と環境をテーマとした、 お客さま参加型のプログラムを提案せよ

マックスバリュ東海は、「何よりもお客さまの利益を優先しよう。」という企業理念のもと、安全で安心な商品・サービスの提供と店舗づくりを行い、お客さまと同じ地域社会の一員として、地球環境への負荷低減と保全に努めています。そこで、食と環境をテーマにしたマックスバリュ東海らしいお客さま参加型のプログラムを検討します。

解決策

子供たちとつくる食の未来 ～環境×地域×学習～

課題解決の方向性 [考え方]

子供たちが主体となり、環境にやさしい食品をPRし、実際に販売することで、「自分の行動で社会を変えられる」と感じられるプログラムを提案します。子供たちが「自分ごと」として大人に呼び掛けることで、地域社会全体で考えることにもつながります。

子供目線の課題

- 受動的な学習になりがち(自ら考えて何かを達成できるという自信を育むことがむずかしい)
- 社会とのかかわりを意識できる機会が限られる

学習

【行動】
座学や、規格外野菜を使った食品工場や食品ロスを活用した飼料を使用している農場、地産地消の「じものの商品」販売店舗などを見学する

【狙い】

- 食を通じてSDGsや環境配慮の取組を理解する



大人(お客さま)目線の課題

- 関心はあるが、やるべきことがわからない
- 行動の成果が見えないため、実行に移せない
- 心理的な負担感を感じる(価格や調理の手間など)

企画

【行動】
お客さまに商品の魅力や環境配慮の取組を効果的に伝えるためのチラシやPOP、売場のレイアウトを考える

【狙い】

- SDGsと日常生活の接点に気づく
- しごとを通じてSDGsを実現できることに気づく

販売

【行動】

店頭で、お客さまに生産者や店舗の環境配慮の取組をPRしながら、商品を販売する

※環境月間(6月)や食品ロス削減月間(10月)に合わせて、子供たちがデザインした特設売場を設置する

【狙い】

- 子供たちの自信を養い、環境問題を「自分ごと」として考える当事者性を培う
- お客さまとの交流を通して、発信力、主体性、協調性、責任感を育てる
- お客さまに食を通じた環境配慮の取組を実行するきっかけとしていただく

持続可能な社会へのポイント

- 子供たちは体験を通して、食と環境の関係を学ぶ。
- 子供たちは未来を考える力を身につける。
- 子供たちは自らの未来にむけて行動する。
- 店舗・子供・お客さまが協力して未来をつくる。
- 環境配慮食品の購入を通して、地域全体で環境にやさしい暮らしを実現する。



研究員メッセージ

未来を担う子供たちは、環境保護・環境保全の最大の受益者です。しかし、その環境を守る取組に、子供たちの意見が取り入れられる機会は多くありません。一方、大人は環境問題への対応が大事だと知りながらも、たくさんの人が行動に移せないでいます。買い物という日常行為が環境について考える機会となり、具体的な行動につながっていくことを期待しています。

チーム
マックスバリュ

南山大学 1年 石黒由萌
名古屋商科大学 3年 上野颯大

中部大学 1年 一ノ瀬夢
愛知学院大学 4年 川田維月

ファシリ
テーター

le-puro
代表 清水 君代





課題

知多半島の海を守る取組のさらなる活発化につながる方策を提案せよ

知多半島で事業を営むLIXILは、社員の一人が海洋プラスチック問題に関心を持ったことをきっかけに、地域課題の解決とリサイクルへの貢献の両方を目指すプロジェクトを始動させ、地域ぐるみでの海を守る活動などに取り組んでいます。このプロジェクトをさらに活発化させ、地域の皆さんに環境問題を知ってもらうための方策を検討します。

解決策

歌+イベントで未来につながる意識改善

～意識が変われば行動が変わる、行動が変われば環境が変わる～

**課題解決の方向性
[考え方]**

海を守る取組のさらなる活発化を目指すには、人々の記憶に残り、思い出してもらえる仕組みが必要だと考えました。歌とイベントで人々にインパクトを与え、未来の環境を守るために行動につなげられる方法を提案します。

**LIXILの海を守る活動
サークルシー
『CIRCLE SEA』の取組・課題**

取組 ●幼稚園や小学校等に出前授業
●ビーチクリーン

課題 ●取組によって改善された意識を継続的に保つことが難しい
●LIXILの従業員・常滑市役所の有志のみで活動している

地域の人々が海洋プラスチック問題を**自分ごととして捉えられていない**

**解決策
1**
歌を研究員が作詞作曲！
出前授業などで流し続け、子どもたちの記憶に残す！

- 【STEP1】 知多半島の海洋プラスチック問題を題材に童謡のような親しみやすい内容で作成する
- 【STEP2】 作成した歌を幼稚園・小中学校等に配布し、お昼の時間に放送してもらう
- ▼
- 歌を継続して聴くことで、記憶に残る
- ▼
- 海の環境問題について考える人が増え、環境を守る行動につながる

**解決策
2**
LIXILが思い出に残るイベントを開催！
海洋プラスチック問題に興味がない/知らない大人にも広める！

- 知多半島で100年以上事業を展開してきたLIXILが、地域の先頭に立って海洋プラスチック問題への関心を高めるイベントを開催する
- ▼
- イベントが参加者の思い出に残ることで、海洋プラスチック問題を自分ごととして捉え、意識改善を行うきっかけとなる
- また、海を守る活動に参加する仲間が増える

持続可能な社会へのポイント

- 何度も聞いた歌が記憶に残り、環境を考える回数や行動が増えることで、活動の活発化につながる。
- イベントに参加することで楽しく環境問題を考えることができ、環境活動への継続的な参加につながる。
- 環境を考える行動や活動の継続参加が増えることで、海洋プラスチック問題を自分ごととして考える人が増え、問題を考える輪が広がる。



研究員メッセージ

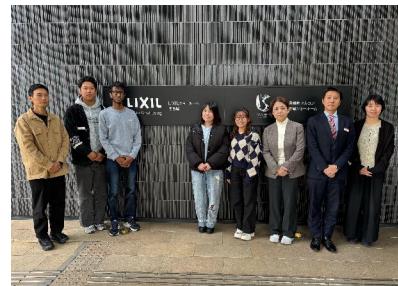
人の記憶に残り、思い出してもらえる仕組みについてチームで話し合う中で、「歌」や「楽しかった思い出」が私たち自身が「ずっと覚えているもの」だったので、この二つを軸に提案を考えました。私たちの提案により、海を守る活動がさらに活発化し、より広まっていくことを願っています。

チーム
LIXIL

南山大学 1年 大須賀遼
名古屋産業大学大学院 1年
名古屋経済大学 2年 佐橋紹月
中部大学 3年 山田萌咲菜
POHATH MUDIYANSELAGE
LAHIRU PRANEETH BANDARA

ファシリテーター

特定非営利活動法人
子ども＆まちネット
理事長 水野 真由美



これまでに参加いただいた 研究員所属大学及びパートナー企業・団体

研究員所属大学
(28大学)

愛知大学、愛知学院大学、愛知教育大学、愛知県立大学、愛知工業大学、愛知淑徳大学、金城学院大学、至学館大学、鳴山女学園大学、星城大学、大同大学、中京大学、中部大学、東海学園大学、名古屋大学、名古屋学院大学、名古屋学芸大学、名古屋経済大学、名古屋工業大学、名古屋産業大学、名古屋商科大学、名古屋女子大学、名古屋市立大学、南山大学、日本福祉大学、人間環境大学、三重大学、名城大学

No	パートナー企業・団体 (参画当時の企業・団体名を使用)	年度	No	パートナー企業・団体 (参画当時の企業・団体名を使用)	年度
1	あいおいニッセイ同和損害保険(株)	2025	26	東京海上日動火災保険(株)	2019・2020
2	アイシン精機(株)	2015・2016	27	東邦ガス(株)	2015・2016
3	(株)あいち銀行	2025	28	東レ(株)	2019・2020
4	(株)アルペン	2023・2024	29	凸版印刷(株)	2019・2020
5	イケア・ジャパン株IKEA長久手	2017・2018	30	豊島(株)	2021・2022
6	(株)伊藤園	2018・2019	31	トヨタ車体(株)	2018・2019
7	(株)ウッドフレンズ	2023・2024	32	中日本高速道路(株)	2018・2019
8	花王(株)	2018・2019	33	(株)ナゴヤキャッスル	2016・2017
9	(株)加藤建設	2022・2023	34	西尾信用金庫	2022・2023
10	(株)コメダ	2021・2022	35	日本ガイシ(株)	2020・2021
11	(株)サガミホールディングス	2024・2025	36	日本特殊陶業(株)	2025
12	(株)サーラコーポレーション	2020・2021	37	(株)パローホールディングス	2022・2023
13	(株)サンゲツ	2022・2023	38	ホーユー(株)	2021・2022
14	JAグループ愛知	2017・2018	39	(株)マキタ	2023・2024
15	敷島製パン(株)	2022・2023	40	マックスバリュ東海(株)	2024・2025
16	シャチハタ(株)	2024・2025	41	(株)三井住友銀行	2015・2016
17	新日鐵住金(株)名古屋製鐵所	2017・2018	42	三井不動産商業マネジメント(株) ららぽーと名古屋みなとアクルス	2019・2020
18	スター・バックスコーヒー・ジャパン(株)	2017・2018			
19	積水ハウス(株)	2018・2019	43	(株)Mizkan Partners	2016・2017
20	ソニーグローバルマニュファクチャリング &オペレーションズ(株) ^{※1}	2015・2016	44	(株)三菱東京UFJ銀行	2016・2017
21	大同メタル工業(株)	2024・2025	45	名鉄観光サービス(株)	2016・2017
22	中京テレビ放送(株)	2020・2021	46	(株)メニコン	2019・2020
23	中部国際空港(株)	2016・2017	47	ユニー(株) ^{※2}	2015・2016
24	中部テレコミュニケーション(株)	2020・2021	48	吉本興業(株)	2020・2021
25	(株)デンソー	2017・2018	49	(株)LIXIL	2024・2025

※ 1:2015年度はソニーイーエムシーエス(株) ※ 2:2015年度はユニーグループ・ホールディングス(株)

研究所の活動をご覧いただけます



公式WEBページ



X (旧Twitter)
@kagayake_aichi



YouTube



持続可能な開発目標(SDGs)とは

持続可能な開発目標(SDGs)とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。愛知県は2019年7月に内閣府から「SDGs未来都市」に選定され、SDGsの取組を積極的に推進しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

